

## 1. 開会

## 2. 出席者紹介

## 3. 議事

### ・提言（案）について

**浅利委員長：** 皆さまもこの間、何度もやり取りをありがとうございました。また、皆さまのお名前もぼつちりと残るようなかたちで、ある意味ではちょっと変わったというか、みんなの魂がこもった提言書のかたちになっているのではないかと考えております。この間、ご協力を本当にありがとうございました。

ですけれども、その皆さまご自身からの情報提供も含めて、ちょっと齟齬があるとか、この点を忘れてるんじゃないのかということがありましたら、ぜひ遠慮なくご発言いただきまして、最終は私の方で預からせていただきますけれども、ぜひご意見をいただけたらと思います。

まず特段ご意見がある方にお聞きして、特にないよという方からも、一番最後の方がいいかもしれませんけれど、一言ずついただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、まず会場でどなたかご発言を希望される方がおられるようでしたら、会場の方でご指名いただけますでしょうか。

**常盤委員：** プラスチック問題について非常に詳しくいろいろと検討されていますが、私がちょっと気になったのは、プラスチックごみのマイクロプラスチックの問題が洗濯排水というところはかなり狭まっているような感じがして、「マイクロプラスチックって何で問題なのだ？」というところが明確にあまり出ていないという印象を受けました。

最近、マイクロプラスチックの問題が大きく学会とか論文で取り上げられて、実際にマイクロプラスチックによる健康への被害の可能性などが出てきています。魚介類を食べたりする生物、それから人にも影響が出てきているという、論文がここ1年、2年の間に出てきていますので、その辺は今後注目しておかないと、生態系、人への影響というのが、深刻にならないか心配です。現在、世界的には、マイクロプラスチックの問題にも注目して研究が進められている現状があるということを知っておいてほしいなと思います。

**浅利委員長：** もし具体的に、例えばコラムとかで紹介した方がいとかご助言があれば、また後で事務局などにもお伝えいただけたらと思います。

おっしゃっていただいたみたいに、かなり研究は進んでいますけれども、まだ完全に明確に人体影響があると断言されている状況ではないものの、一つの関心事項になっていること

は間違いのないと思いますので、何かしら追記が可能な部分があれば事務局とも調整させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

**村上委員：** 前回の意見なども踏まえて、大変丁寧に加筆していただいている、完成度が高まったのではないかと考えております。

まず外形的なところで質問させていただきたいのですが、いくつかの提言の後に委員の名前が書かれているところと書かれていないところがあることについてです。名前はそのまま残るものなのか、もしくは、確認をしたくて残っているのでしょうか。

それから、私が最初に戸惑ったのが、①、②、③のナンバリングです。現状と課題のところに①、②、③という数字がついていて、提言のところも①、②というのがナンバリングされているんですが、少なくとも、この丸がついているのは提言にしか使わないというふうにすると、読む人がちょっと読みやすくなるかなと思いました。

それから提言ですけれども、全部通し番号にした方が読む人にとって分かりやすいのではないかと考えました。今は「環境教育・コミュニケーション」で1からいくつかあって、また「普及啓発」で1からとなっていると思いますが、最後のページに全体を57、一覧にしてくださいますが、これを通し番号にしてしまっただけで、「普及啓発」は9から始まるようにすると、この一番最初の「重点項目」の8ページの全体像を示すところで、もうちょっと書きやすくなったり、読む人も分かりやすくなったりするのではないかと考えました。これは一アイデアなので、今のままの方がよいというご意見もあるかもしれませんが、一案として提示させていただきます。

それから、私の提案もたくさん取り入れていただけて非常にありがたいなと思っています。最初の現状の説明はこれでよいと思うのですが、11ページの環境教育のところを生分解性プラスチックのことを丁寧に盛り込んでいただけていますが、ここで生分解性プラスチックだけ急に詳しくなっていて、バランスが良くないと感じます。先ほど浅利委員長がおっしゃられていた、コラム的な扱いにした方が分かりやすいのではないのでしょうか。形的なところから恐縮ですが、読み手になってあらためて見てそのように感じたので意見を申し上げます。

**浅利委員長：** まず委員のお名前が件ですけれども、おそらくこのまま入れて進めるという前提でつくっていただいているのかと思いますが、そのあたり事務局の認識をお聞かせいただきたいのと、あとは委員の皆さま方がどう思われるかという点も含めて最終調整ができたと思いますので、後で事務局の方でお願いします。

それから、レイアウトも非常に重要で、やはりこれを生かしてもらってなんぼだと思いますので、大変貴重なご意見をいただけたのかなと思います。これは事務局の方でいったん預かっていただいて、修正を加えてみていただいて、また最終ご確認いただくかたちかなとは思っております。私の見解は以上ですけれども、事務局より補足等があればお願いいたします。

**事務局：** まず最初の提言の中で、委員の名前が入っているものと入っていないものがある

ことについて、今委員の名前が入っているものは、前回2回目の会議から追加したものについて名前を入れています。ですので、最終的には取って、ほかの提言と同じようなかたちにしようと考えております。今回は分かりやすいように前回から変わったところということで名前を入れています。

**浅利委員長：** 了解です。では最終的には消されるものだという事ですので。もちろん残すことはできると思いますけれど。

**久鍋委員：** まずはたぶん大変だったと思います。こうやってまとめていただいてありがとうございます。私自身もいろいろな部分で勉強になった部分がたくさんあると思います。

ちょっとここから、この書類に対しての意見ではないんですが、やはり今回を通じて私の中で大きく思った点というのが、やはり公募、またいろいろな人の意見を聞くことになって、よりこの書類が具体的になっていったんだなと正直強く思っています。ぜひそういったやり方をこの先も、このプラスチック問題だけでなく、やり続けていただきたいということと。

私からの要望は、この書類ではなく、先のこととして、やはり今沖縄県の中でという、参加できる年代や地域、これがすごくほかとは違う状況がたくさんあると思います。地域、地域で取り組むことができる内容を、この書類ではなく落としてあげることが本質的なプラスチック問題解決に大きくつながることだと思いますので、ぜひそのときに沖縄独自のものの中でやっていただきたいということだけお願いをしたいと思います。

**浅利委員長：** ご意見をありがとうございます。何か事務局から特段の回答ありますか。

**事務局：** 今、久鍋委員から、今後意見を聞く機会を設けていただきたいというお話がありましたので、後でまた説明しますが、次年度の取り組みとして、この提言を踏まえた計画を策定することを検討していますので、そこで関係者の、県庁内部になるのか外部になるのか分かりませんが、意見を聞く場を設けたいと考えております。

**浅利委員長：** はい。次の議題でもまた加えてのコメント等があれば後でもよろしく願いいたします。

ほかはいかがでしょうか。オブザーバーでずっと感想をいただいていた栩野さんなど含めてご発言があればと思います。

**栩野オブザーバー：** この提言書はとても丁寧に、いろんな議論が反映されていて、とてもいいと思います。オブザーバーの私にも発言と提言の機会を与えて頂き、そのエッセンスはしっかり入っているのでとてもよかったです。ありがとうございます。

**浅利委員長：** 本件に関しましてほかはいかがでしょうか。もしまたお気づきの点がありましたら、できるだけ近日中に事務局なりにお知らせいただいたら、また可能な限り反映して最終回にしていきたいと思っておりますので、どうぞご協力のほどをよろしくお願いいたします。

ということで、いったんこちらで終わらせていただいて、事務局と調整して、私の方で責任を持って最終取りまとめを行い、知事への答申へと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 4. 報告事項

- ・ヒアリング調査等の結果報告について
- ・プラスチック問題解決に向けた次年度以降の取組方針について

**浅利委員長：** こちらの状況も踏まえまして、何かご意見、ご質問等があればお願いしたいと思えます。会場の方は、すみませんがご確認をいただけますとありがたいです。

**栩野オブザーバー：** 補足情報を提供します。資料3の2ページ目に国際通り連合会の話があり、そこにあるデジタルサイネージについて補足します。デジタルサイネージが国際通りに多数展開されると、防災情報も発信でき、それ自体が非常にSDGs的な取り組みです。デジタルサイネージは収益事業でもあり、収益金で二つのことをやろうとしています。

一つは、ヒアリングにあるとおり、「SmaGO」というゴミ箱の設置です。「SmaGO」は、ゴミでおなかがいっぱいになったらサインが出るという面白いものです。

もう一つは、収益金で清掃員も雇おうとしているそうです。清掃員については、かつては雇っていたが、コロナ禍等でできなくなっていたものを、デジタルサイネージの収益に復活させる、という話だそうです。

もう一つ補足します。同じページの一番下、9月中旬の「HAPPY EARTH FESTA (ハッピーアースフェスタ)」。これは実際に実行されまして、「HAPPY EARTH FESTA」期間中に国際通りのクリーン活動をやりました。ボランティアでいろいろな会社の人に来てもらいました。「HAPPY EARTH FESTA」は、主催者は2030年までやるつもりです。HAPPY EARTH だけではなく、国際通りのごみ清掃活動を定例化しようという動きもあります。

**浅利委員長：** 動きがあることが大変よく伝わってまいりました。今後とも引き続き、プレーヤーということになるかと思えます。

**久鍋委員：** これは個人的にという、まず一つが「OCCN (沖縄クリーンコーストネットワーク)」。コロナ禍だったのであまり開催はなかったんですけど、最後が11月だったと思います。私も参加をしていますけれど、やはりまだ参加者が少ないというのと、その後のごみの回収をした後の対応というのが、今、海上保安庁がきちんと分別をしているのでできているというのが実態だと思います。やれる環境として、ごみの回収の市町村への啓蒙や分別や、その後の回収が結局できないのでやりにくくなっているのが実態ですから、そういった部分をできるようにしていただきたいというのと。

先ほど新規事業の、新規の取り組みでお話があったので、二つだけお話をします。一つは先ほどスーパーが集まってということでお話をいただいたと思います。あの中でコンビニはセブン-イレブンだけたぶん入っていたと思います。その中で、今実態として、店舗でカトラリーをセルフでという取り組みはチャレンジで何回もやっています。ただ、そんなに量が減っていないというのが実態ですので、ここで県を含めていろんな周知ができれば、自分たちで「必要なものを取る」習慣になっていけば、実際に使用するプラスチック量というのは減っていけると思えます。お店での告知だけではやはりちょっと弱い部分がありますの

で、こういったところで県や、また団体としてのバックアップをしていただければ大変ありがたいと思います。

本土の方でも昨年「てまえどり」というのでフードロスのものをやっていただいたと思います。ああいったものの啓蒙をちょっと貼るだけで参加する意識の方は増えてくると思いますので、カトラリーについても同じようにやっていただければ小売りとしてはありがたいと思います。

それと、たぶんスーパーの中でレジ袋のことはたくさん出たと思います。費用の問題もたぶん、意外と限界を超えているというのが本音です。軽量化ももう限界まで来てしまって、去年はたぶん軽量化をやりすぎて破れやすくなってしまったとか、そういった問題もたくさん発生していますので、ここら辺は各社共通で、県が主導してもらって、「このボーダーラインで」とやっていただけると各社が参加しやすいと思いますので、ぜひそこはリーダーシップを執っていただきたいというのがお願いでございます。私の方は以上です。

**浅利委員長：** 貴重なご意見をありがとうございます。ご助言を含めてありがとうございます。何かもし事務局の方からご返信といいますか、コメントできることがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**事務局：** OCCN がとりまとめるビーチクリーンにつきましては、委員がおっしゃっているように、ごみを回収した後のごみの処理というのがなかなかうまくできていないところもあるのかもしれません。地域環境センターの方でボランティア活動のマッチングなども行っていますので、そういったところも活用しながら、どうやったらうまく市町村とも連携できるのか検討していきたいと考えております。

あと、レジ袋削減を話し合う会議では、セブン-イレブンさんもオブザーバーで入っていただきありがとうございました。カトラリーの話も、県でどれくらい、どういった支援ができるのか検討していきたいと考えております。

そして、やはり現場の声を聞く事が重要だと思います。2時間の会議で意見があまり出ないことを懸念しましたが、実際は2時間みっちりといろいろな意見が出まして、現場では統一した規格が必要だとか、委員がおっしゃっているように、自社だけがレジ袋を薄くすると逆に苦情があって、「向こうのレジ袋は厚いんだけど」といった声をいただくというお話がございましたので、そういった意見も参考に今後もお話を聞きながら検討していきたいと考えております。

**浅利委員長：** 今、一通り提言の確認や資料の説明が終わって、提言に関してはいったんご意見をいただいて、最終私の方でお預かりすることになったので、後で、今の議事が終わりますして、もし提言も含めてご意見やメッセージがあればお願いしたいと思っております。

ほかに会場から、先ほどの、特に資料3、4あたりに関してのコメントやご意見等があればお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**村上委員：** まず質問ですが、「環境教育・コミュニケーション」のところの新規の取り組みで、学校機関や事業所に対する出前講座を実施するというのが計画されているというこ

とですけれども、これはこのセンターがされるのか、どこがされるのか。もしかしたらそういうことに取り組んでいる NPO や、企業さんなどを後押しするような仕組みになるのか、そこら辺を一つ伺いたいと思います。

それから、国際通りの取り組みの話を非常に興味深く伺っていました。今県はラジオ広告をされているということですが、例えば短い動画などにすると、このサイネージで表示していただけて県の取り組みの PR にもなりますし、観光客の行動変容の一助になるかなと思われました。

それから、提言の 17 ページだったと思いますが、「県民への新しいライフスタイルや消費のあり方の提案」とか「ワンウェイプラスチックの先進的な削減の推進」のところでいくつか提言があるんですけれども、例えばこれの面白い取り組みをしているところを表彰するというかたちで啓発活動につなげていって、その表彰されたところがこの国際通りで、サイネージで紹介されるとか、自分のところで頑張ったら PR にもつながるみたいな、そんないくつかの取り組みをつなげていって効果を大きくしていくみたいなことができるのではないかなと思われました。以上です。

**浅利委員長：** お知恵も含めてありがとうございます。もし事務局から現段階で何かお答えしておきたいことがあればお願いしたいと思います。

**事務局：** 地域環境センターによる出前講座の実施についてですが、既存の取り組みとして、地域環境センターの出前講座ということで書いていて、新規の方に書いてある出前講座も、地域環境センターによる出前講座のことですけれども、これまでは主に学校機関に対して、学校機関の要望を受けて出前講座を実施してまいりましたが、今後は学校だけではなく、事業所であったり地域であったり、そういったところからの要望もお受けするかたちで出前講座の方は実施してまいりたいというような趣旨でございます。

普及啓発のラジオ広告の実施についてですが、予算の都合上もあって今はラジオ広告ということにしていますが、今後は動画等による広告もできるように検討してまいりたいと思っております。

**浅利委員長：** もし何かまた追加でご意見やアドバイスがあれば後でお願いしたいと思います。清野委員もありがとうございます。

**清野委員：** よろしく願いいたします。

**浅利委員長：** 今の流れの中で、会場ではかにご意見、それからコメント、追加情報等がある方はおられますでしょうか。

おられないようでしたら、清野委員の方、先ほど原田委員にもお伝えしたんですけれども、提言に関してはいったん事務局より変更点を中心に説明をいただきまして、少しレイアウトの関係などを含めてアドバイスをいただいて、最終、こちらでお預かりして最終化することになったんですけれども、ぜひ委員の皆様方からもコメント、感想、追加のご意見等があれば、この後でお願いしたいと思います。

あと、今後の方針等に関しては、資料 3、4 を使ってご説明いただきました。ですので、

提言書、それから今後の方針を含めて、全体的にお気づきの点等があれば、ぜひお二人の委員からコメントをいただきたいと思います。まず原田委員からでよろしかったでしょうか。提言書にもすごく建設的なご意見をいただきましてありがとうございます。一応、事務局とも相談して、ある程度の範囲はできたかなと思っているんですけど、まだまだぬるいよというようなことがあれば。

**原田委員：** 8ページのちょうど重点的に取り組む提言のところで、青字で書き加えていただいている部分が私からの提言といたしますか、コメントを反映していただいた部分だと思うんですが、ありがとうございました。

特にこれで異論はないんですが、言葉の問題だけで、「自立した独自の」と同じことを2回言っているような気がして。ですので、「独自の」というのは、どこまでを独自と考えるかという範囲があると思いますので。といいますのが、海ごみの問題というのは日本国内だけで完結する問題ではないので。日本では独自の、例えば私の住んでいる亀岡市は日本で唯一レジ袋を禁止していますけれど、こんなのはべつにヨーロッパに行けば当たり前の話でとか。なので「独自の」という言葉は省いていただいてもよろしいのかなど。

むしろ「自立した」ということはすごく大事なことだと思います。よく「ほかに事例がない」とか、「まだそんなことはどこもやっていない」ということは、批判というか、非難として起こり得ることですけれども、いやいやそうじゃないんだ、沖縄の島しょ型の対策として、自立して取り組んでいくんだということをはっきりするためにも、この「自立した制度の導入」というふうな書き方でいいんじゃないかなと思いました。もしかしたらいろいろと耳の痛いことを申し上げたかもしれないですが、反映していただいてありがとうございました。ひとまず以上です。

**浅利委員長：** 清野委員もちょっとお願いしてよろしいでしょうか。

**清野委員：** いろいろと沖縄の地理的なところだとか、島の特性、あと気候の特性ですね、そのあたり、自然条件をよく入れていただいて分かりやすくなったと思います。

私からは、なぜ沖縄でこの問題なのかというのを、そういう意味で県民の方に意識していただくところが大事かなと思いましたので、それは投入していただきました。あと、些末な書式のところですが、こういう提言のときに、図番号とかを入れる場合、入れない場合とあるんですけれども、そのあたり、すでに今日の議論でもあったのかもしれないんですけれども、図番号があるというのは、研究者というのはわりと安心するんですけれども、それを全体として判断されるかどうかはお任せしたいと思いますが、一言お伝えしたいと思います。私からは以上です。私がこだわっていたところは全部入れていただきました。ありがとうございます。

**浅利委員長：** はい、ありがとうございます。最終、念頭に置いて、仕上げを目指していきたいと思います。

ということで、一応一通りご意見はいただいたというかたちになりますので、提言書の仕上げを含めて進めたいと思います。もし事務局から何かコメントとか、もうちょっと確認し

ておきたいとかということはありませんか。

**事務局：** 1点確認してもよろしいですか。先ほど村上委員からお話がありました番号についてです。提言に通し番号を付けること、①は提言だけに使ってもいいのではないかということでもよろしいでしょうか。

**浅利委員長：** そうですね、私はそれもありかなと思って聞いておりました。ちょっと事務局で一回シミュレーションしてみて、もしすごく差し支えがないなら、より分かりやすくしていただく方が望ましいと思いますので。

**事務局：** では、いったんそのように修正してみます。

**浅利委員長：** そうですね。ご懸念点があったら、またお知らせください。

**原田委員：** いろいろ図とか写真とかも入れていただいているんですが、例えば11ページにバイオプラスチックの分類という、これはおそらく画像データじゃないかなと思うんですけど、書類のバリアフリーのために、もし可能であれば、ちゃんとテキストとして認識して目の不自由な方でも音声読み上げができるようなかたちにしていただければ。ちょっと元のデータがどうなっているか分からなかったんですが。あるいは写真なんかも、ちゃんと何の写真かというのを、代替テキストというのを入れると、障害をお持ちの方でも読めたりするようにできますので、ご配慮いただけたらなと思って。コメントですけれど、可能な範囲でぜひご対応いただけたらと思いました。以上です。図表番号の話があったので、ついでです。

**浅利委員長：** ということで、一通りいろいろ多角的な視点からありがとうございます。では、これで本日の全体の議題といたしますか、用意した議題に関しては終わりかと思えます。

この間2年間、委員の皆さまと一緒に取り組ませていただけてまいりました。これがいったんの区切りということになりますので、ぜひ一言ずつ、今回の提言、今後の取り組み等に関して、これまでのことを振り返ってでも結構ですので、メッセージをいただけたらと思っておりますので、お願いをしたいと思います。まず会場の方から回していただいてもよろしいですか。

**事務局：** 承知いたしました。それでは常盤委員から順番にご意見をいただいてよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。

**常盤委員：** 私は微生物により分解される生分解性プラスチックの研究開発をずっとやってきて、今、沖縄ではプラスチックが、海で分解するような仕組みを研究し、海洋生分解性プラスチックの開発をやっています。どちらかという技術的な方に関心がありましたが、この会議に2年間出させていただいて、プラスチック問題もいろいろな視点があることを知り非常に勉強になりました。

**浅利委員長：** またこれからも非常に重要なテーマだと思いますので、ぜひ情報共有もお願いできたらありがたいです。

**久鍋委員：** 私は、常盤委員と分野が違って、小売りの方の分野でやっています。この2年間で皆さんからいろいろなアドバイス、逆にいろいろな委員の方の意見を聞くことで私た

ちもまだまだやれることがたくさんあるなと強く認識したこの2年間だったと思います。ぜひこういう取り組みは継続をしてやっていただきたいですし、私たちが企業であり個人としてできることはやっていきたいと思います。

最後ということなので、ちょっとお願いとして二つのことだけを最後に言って終わりたいと思います。当然今、全国でいろいろなプラスチックの問題、世界でもプラスチックの問題、プラスチックだけじゃなく、いろんな問題については、各企業、また各県や団体、また個人として、いろいろな取り組み、いい参考例はたくさんあります。それは逆に沖縄でないものもまだありますので、ぜひそういったものは、効果が出るものは積極的に取り入れをやりながら、沖縄県の中で新しいものをつくっていくようにやっていただきたいと思います。

それと今、最大の問題として二つ、やはり沖縄の多くの方が参加する体制をつくっていかないといけない。あくまで、提言、これも必要かもしれない。やはり現実にやれるようにしていくためにぜひやっていただきたいのが、今の時代なのでスマホからアプリで必ず県で発信できるようなやり方をしていただきたい。今私たちいろいろな企業もアプリを通じて顧客IDユーザー管理はすごくやっていきます。CRM戦略もものすごく各企業でやっていると思います。ただこれはもう県としてでもそういうCRM戦略を入れながら、アプリやいろんな参加をやる方を通じて参加できる体制というのをやるべきだと思っています。これがどういうやり方がいいのかは、またやり方はたくさんありますけれども、ほとんど誰もが携帯を持っている中で、ぜひワンクリックで入れるような体制、また携帯を持っていない方でも一緒に参加できる体制というのを検討していただきたい。

それと二つ目に、このリサイクルの事業は、テーマにはほとんど出ませんが、最大の問題は回収コストとその後のリサイクルだと思っています。これを本当に沖縄県として世界、または全国ではないものをまだまだ取り入れていける体制というのにはたくさんあると思います。常盤委員の方がお詳しいと思いますけれども、プラスチックの分解機能やいろんなものがまだまだあります。そういったものをきちんと県として、また企業と本当に一緒になってできる、そういった体制というのが継続する一番の方法だと思っていますので、ぜひその点について、逆にこの後、今後に企業として私たちも参加できる部分にご協力いたしますので、できるようになっていきたいと思っています。

それと、さっきあったように、できる場所とできる人を増やしていくことが一番重要だと思いますし、その後どうなったかをきちんと県の方に報告をしてあげることが重要だと思います。そういったことができるのが、この沖縄の人と人とのつながりの最大の強さだと私は思いますので、ぜひ沖縄県の取り組みとしてそういったことをやっていただきたいとお願いをして、あいさつとしておきます。本当に2年間ありがとうございました。

**浅利委員長：** 本当にセブン-イレブンさんの立場、こういう立場に加えて、ご自身の見解も大変率直にお伝えいただいて、議事の進行が大変助かりました。これから本番ですので、どうぞ引き続きよろしく願いいたします。ありがとうございます。

**村上委員：** 私もこの万国津梁会議に参加させていただいて、大変いい経験をさせていただ

きました。どうもありがとうございました。とりわけ沖縄県の地域性に根ざした活動や現状を学ばせていただきながら、どんなことができるのかというのを皆さんと一緒に考えていく時間、とても楽しかったですし、このような文章にまとまってきたというのも、とてもうれしく思います。

先ほど久鍋委員からもあったように、これをどう実行していくかというところですが、私が参加させていただいているのは消費者団体の立場からですので、ぜひその動きに消費者団体も参画できるようなかたちで広げていっていただきたいし、もしそういう動きがあったときは NACS も積極的に参加していきたいなと思っていますので、それをお願いしたいと思います。

提言番号で言うと6の、実行体制の3、4、5くらいのところになると思いますが、事業者さんは、消費者が買ってくれないからできないんだとか、消費者からのクレームは非常に困るとか、手間暇も掛かりますし収益にも影響するので、消費者が動けるといのはすごく重要だと思っています。そこにアプローチできる立場として、草の根でやっている私たちのような存在も力を出せると思っていますので、そういうマルチステークホルダーが集まって意見交換ができて、「えっ、事業者さん、そんなことまでやっていたんですか」とか、「そんなことならうちも宣伝しますよ」とか、そういうことが生まれるような場をぜひつくってもらえたらうれしいなと思います。

そこには消費者団体だけではなくて、環境 NGO には沖縄でもリサイクルをすごく頑張っている団体もありますし、沖縄の大学の環境や環境教育の専門家の皆さんも入った上で、ざっくばらんにそういう議論ができるような場があるとよいのではないかと思います。ぜひその最初のステップとして、消費者団体と県のご担当部局でも結構ですが、まずは意見交換からでも始められるとうれしいなと思いました。ぜひこの参加させていただいた私の豊かになった学びを、沖縄で活動している消費者団体の皆さんにつないで、沖縄で広げていけるようにできたらなと思っています。よろしく願いいたします。

**浅利委員長：** 草の根とおっしゃいましたけど、本当に一番の底力が試される場所かと思えますので、ぜひ沖縄への展開とか、あと、全国の仲間の皆さまにも公開の後には共有いただけるとうれしいなと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

**事務局：** ここでいったんオンラインで参加されている委員の方に折り返しお願いしたいと思います。

**浅利委員長：** では清野委員、お願いしてよろしいでしょうか。

**清野委員：** この津梁会議に参加させていただきましてありがとうございました。沖縄には現地調査ということで海ごみや海岸生態系の関係で行っていただきましたけれども、今回沖縄県の政策の一部に組み入れていただくような内容としていただきましたことをありがたく思っております。ほかの委員の方々のお話にもありましたけれども、何より沖縄県民の皆さんが心から納得がいて行動できるような、そういう展開になるように思っております。また私もこれからは沖縄の海岸や地域を訪れることがあるかと思えますので、今回関わら

せていただいた内容を広めていったり、県民の皆さんと考えていきたいなと思っており  
ます。

立派な提言書となりましたけれども、これをぜひ沖縄県庁の中で、行政の中で横断的な内  
容を含みますので、うまくリーダーシップを、県知事の関係の部屋だけではなくて、環境部  
とかいろんなところに、そして関係される経済や農林水産など全てに伝わるようなかたち  
で推進していただけたらと思っております。また、この委員会を通じて交流をさせていただ  
きました委員の皆さまとも、またいろいろとお会いして教えていただくこともあるかと思  
いますけれども、どうぞよろしく願いいたします。貴重な機会をどうもありがとうございました。  
以上です。

**浅利委員長：** 一番近くにもおられて、またいろいろと接点もあるかと思いますが、どうぞ  
よろしく願いいたします。

では、原田委員もよろしく願いいたします。

**原田委員：** 私もこうした機会に参加することができて本当にうれしく思います。今、日本  
中で、あるいは世界中でいろいろな議論が重ねられているわけですが、やはりなかなか  
かどうして国の政策というのは時間がかかるものです。特にこのごみ、廃棄物の問題に関し  
ては、地方自治体の取り組みというのが本当に大きなウェイトを占めているわけですが  
けれども、今回、県でこうした計画をまとめていただいたこと、提言をわれわれと一緒にまと  
めさせていただいて、県の政策としてこれから取り組んでいただくにあたって、ぜひ基礎自治  
体、市町村の皆さんとも連携した取り組みが進められることを願っています。

海外でもそうですけれども、自治体の政策がどんどん横に広がって行って、それが国の政  
策になるケース、まさにレジ袋の有料化なんていうのも、日本でもそういう事例の一つで  
すけれども、先進的に取り組む地域ですね、例えば沖縄県が沖縄のみならず、日本のほかの自  
治体を引っ張っていく、そういう存在になっていけば、こうやって計画をまとめた意味もあ  
るのかなと思っておりますし、また期待もしております。またぜひ引き続きお力になれるこ  
とがあれば貢献していきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。事務局の皆  
さまもありがとうございました。

**浅利委員長：** ぜひ沖縄の分も先進事例として今後いろいろなところに宣伝していただ  
けたらありがたいですし、また国内外の情報をいただけたらと思います。

それでは、栩野オブザーバーも何かございましたらぜひと思います。

**栩野オブザーバー：** オブザーバーにもかかわらず発言の機会をいただきまして、大変あり  
がたく思っております。私にとっても勉強になりました。感想を3点共有したいと思  
います。

一つは、この会議に「万国津梁会議」という名前が付いている重要さです。沖縄県が数  
ある課題を抱えるなかで、現在提言が出ている万国津梁会議は六つしかなかったはず  
です。それぐらい重要なテーマであるということ。委員の皆さまや関係者は分か  
つていても、県民にまで伝わって欲しいと思います。マスコミの皆様が報道する  
ときには、そういう重みのある話ということをぜひ伝達していただけたらうれ  
しいと思います。

二つ目。今日は県から、特化した新規事業が来年度に立ち上がるとか、資料4として非常に説得的な計画が出ていて、このように現実の動きが出てきていることを、すごくうれしく思います。

3番目。ここから先は、いろんなステークホルダーとアクションを取っていくのですが、その中で沖縄経済同友会も積極的に使っていただければと思っています。去年は、浅利先生・久鍋社長・赤嶺社長で沖縄経済同友会に登壇いただきました。今後も、こういう議論があった・こういうことをやろうと思っているというのを、沖縄経済同友会で共有していただければと思います。沖縄経済同友会では県外先進地の視察もできますので、原田委員とか清野委員とか、もしそういうこと企画したらぜひご協力いただきたいと思います。連携ということでは、資料4におきなわSDGsプラットフォームとの連携があります。民間では、「OSP（OKINAWA SDGs プロジェクト）」という琉球新報社主催のプラットフォームがあって、こういうのをどんどん活用していくと、いろんなステークホルダーが巻き込めるんじゃないかと思います。以上です。ありがとうございました。

**浅利委員長：** 以上ですかね。はい。もし漏れがあったり、逆に事務局からもう一言などがあればお願いしたいと思いますが。

**事務局：** オブザーバーの伊藤さまも出席されておりますので、伊藤さま、ここで何か、これまでのオブザーバーとして参加された経緯、ご感想等をお願いいたします。

**伊藤オブザーバー：** 伊藤でございます。今年、今年度になりましてから参加させていただきました大変ありがとうございました。私どもは自治体の立場から全国の海岸漂着物等対策について調査をさせていただいている中で、沖縄県に関しては非常に多くを勉強させていただきました。

視点としましては、すでに委員と栩野さまからもご指摘がありましたとおり、県が主導してここまで、このような委員会を開催しまして、本日できましたような提言書というかたちにとまとめて行動を取ろうとしている事例は、全国の中でも非常に珍しい事例だと私も認識して注目をしておりました。ぜひこれが結果になってくると、この委員会の意味というものが出てくるんだろうかと期待をしております。ぜひここからも、私の方も一緒に、この結果がどうなるのかということで見せていただければと考えております。

すみません、後発で参加なので全てのことが理解できていないんですが、一つだけ私がもしかしたらこういう視点もあるのかなということでお伝えするんですが。沖縄県はちゅら島環境美化条例という、素晴らしいポイ捨て等を抑制していこうという条例をお持ちでありまして、これで県内一斉美化活動とかも市町村を巻き込んで一緒にやられているようですけれども、こういったところでも、ぜひほかの活動とも連携をして。皆さんご存じのように海ごみというものは7、8割が陸域から出てくるというところで、このような活動というものを、県民の皆さんへの周知の機会として、また活動を大きくしていく機会として、すでにご参加は多いようですので、連携をうまくしていただいたらどうなのかなということは感想的には思っておりました。短い間ではありましたが、本当にいろいろ

ろありがとうございました。

**浅利委員長：**ちゃんと計画倒れしないように、また政策研究的にモニタリングを引き続きよろしく願いいたします。

それでは事務局からも一言、何かお話になりますか。せっかくです。

**事務局：**沖縄県環境整備課の久高です。委員の皆さま、本当に2年間にわたり、さまざまな、非常に貴重な意見をお聞かせいただきありがとうございました。委員長をはじめ委員の皆さまがおっしゃっているように、これからが大切だと思います。ですので、これからしっかり皆さまの提言を踏まえて取り組んでまいりたいと思います。また、取り組む中で、皆さまからさまざまなご意見を改めてお伺いすることがあるかと思っておりますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。私の方から簡単ですがお礼を述べまして、あいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

**浅利委員長：**本当に皆さま、2年間ありがとうございました。ただ、やはりしっかりと、これがちゃんと実行されるように、これからもまた見守っていただきたく、もしくはアクションも共にできたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、マイクの方を事務局にお返ししたいと思います。

## 5. 統括監あいさつ

**事務局：**今回が最後ということですので、一言ごあいさつさせていただきます。

まず委員の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中、昨年度からの2年間にわたり、本県のプラスチック問題に関し真摯にご議論いただき感謝申し上げます。本県はご承知のとおり、島しょ県であることに起因する、資源循環に関する多くの課題を抱えております。一方で、本県の世界に誇れる豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくためには、プラスチック問題課題解決に向けて対策を講じていくことが重要であります。そのためには、地域特性に即した取り組みを推進し、可能な限りプラスチックを利用しない島しょ型プラスチック資源循環社会の実現を目指していく必要があります。

こうした課題解決に向け、本会議において委員の皆さまそれぞれの専門的立場から、多種多様で有益なご意見、ご提言をいただき感謝申し上げます。県としましては、行政と事業者、県民等の各主体が連携し、本県に適した取り組みを実施していくことが重要であると考えております。各委員からのご意見、ご提言を踏まえ、県民のプラスチック問題に関する意識向上と、新しいライフスタイルへの転換を促進してまいります。

今後は本会議からいただいた提言を、本県のプラスチック問題解決に向けた指針として、その内容に取り組んでまいります。3月に予定されている知事への提言手交に向けて、引き続き取りまとめをお願いするとともに、本県の環境行政につきまして、今後とも貴重なご意見を賜りますようお願い申し上げます。結びに、皆さまのますますのご活躍とご健康を祈念してあいさついたします。これまでどうもありがとうございました。

(終了)